六地蔵と辻蝋燭と観音　　2019.4.5 岡

１．地蔵

地蔵とは「大地の神」の意味で、全ての生命を育む力を蔵する大地のようだというところから名付けられた。釈迦の入滅後、56 億 7000 万年後に未来の仏である弥勒菩薩が出現するまでの間、六道（地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人道・天道）を輪廻する衆生の苦しみを救うとされている。

２．六地蔵

地蔵菩薩の 6 分身を言う。生前の行為の善悪の如何によって、人は死後に、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天という六道の境涯を輪廻、転生するといわれるが、そのそれぞれに、衆生救済のために配される檀陀、宝珠、宝印、持地、除蓋障、日光の 6 地蔵をいう。　注）経典により六地蔵の名称は異なる。

（１）蓮華三昧経：檀陀（だんだ)、宝珠、宝印、持地、除蓋障（じょがいしょう)、日光地蔵

（２）地蔵十輪経：禅林、無二、護讃、諸龍、伏勝、伏息地蔵

（３）地蔵菩薩発心因縁十王経：金剛願、金剛宝、金剛悲、金剛幢、放光王、天賀地蔵

（４）臨済宗聖典：法性、陀羅尼、宝陵、宝印、鶏兜、地持地蔵

六地蔵の並びは、左から　天、人、修羅、畜生、餓鬼、地獄の場合と、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天の並びが多い。

六地蔵の持ち物は一様でないが、

地獄＝錫杖　餓鬼＝宝珠　畜生＝幢（はたほこ）修羅＝合掌　人道＝数珠　天道＝香炉

地獄＝香炉　餓鬼＝合掌　畜生＝宝珠　修羅＝錫杖　人道＝花かご　天道＝数珠

が多い。

)

錫杖	宝珠	幢	合掌	数珠	香炉
（地獄）	（餓鬼）	（畜生）	（修羅）	（人道）	（天道）

数珠　　　　花かご　　　　錫杖　　　　宝珠　　　　合掌　　　　香炉
（天道）　　（人道）　　　（修羅）　　（畜生）　　（餓鬼）　　（地獄）

３．辻蝋燭（つじろうそく）

六地蔵のまえにある竹の棒は辻蝋燭という。

お盆などの行事の時に、死者を迎えたり送り出したりする目印の役割を持つもので、燭台が無いので篠竹に着けて屋敷の前に立てていた。

４．六道と観音

観音菩薩の導きで六道世界より救われるという観音信仰がある。その六つの世界に応じたそれを六観音とよび、真言宗では以下の観音となっている。

天道：如意輪観音、　人道：准胝観音（じゅんでい）、　修羅：十一面観音、　畜生：馬頭観音

餓鬼：千手観音、　　地獄：聖観音

天台宗では、人道：不空羂索観音（ふくうけんじゃく）のみが異なっている。これも併せて七観音という。

以上